１９３０年協会ー昭和の若き洋画家たちの情熱と友情

今年は、日本近代洋画史上において特筆すべき存在である「1930年協会」が創立されてからちょうど90年を迎える年である。これを記念し、回顧する展覧会を、今年から来年にかけて全国7つの美術館と博物館を会場にして開催する。

ここまで読んで、首をかしげる方がいるかも知れない。「1930年協会」なのだから、それは1930年に創立されたのではないか、それからまだ90年は経っていないのではないか、と。ここではそうした疑念を解くために、この年号を冠した少し珍しい団体の名称と、創立から解消までの経緯について簡単に触れておきたいと思う。

「1930年協会」の名称の範となったのは、フランスの「1830年派」であった。これは1830年を境にパリ郊外のバルビゾン村に集まって、新しい趣向の風景画を描き、友情を結んだ若い画家たち、カミーユ・コローやフランソワ・ミレー、テオドール・ルソーらのことを指す言葉で、「バルビゾン派」とも呼ばれるものである。その画家たちのように、純粋に芸術と友情によって団結することを目指して名付けられたのが「1930年協会」である。しかしそれは、1930（昭和5）年のことではなく、1926（大正15）年のことであった。

前田寛治〈棟梁の家族〉1928（昭和3年）年　鳥取県立博物館蔵

この事情については、「1930年協会」を結成した画家の一人、木下孝則（1894～1973）が第一回の展覧会を開いて間もなくに新聞に発表した宣言文、「純真を慕ふ　1930年洋画協会に就て」によく説明されている。「1930年、この年号は、吾々の頭に異様に響く、この年号を無意義に過去にやりたくない。この年号を意義あらしめてやる、さうした気持と、日本に帰つたら毎年意義のある展覧会をしようと話し合つた在仏中の友情とが集まつて一つの団体が生れた」との一文である。遠くない4年後の1930（昭和5）年を有意義なものにしようとする、未来に自分たちの意欲を投じてゆこうとする、清新な気構えが伝わってくる。この意志を共有して「1930年協会」を旗上げしたのは、木下と、前田寛治（1896～1930）、小島善太郎（1892～1984）、里見勝蔵（1895～1981）、佐伯祐三（1898～1928）の五名の若い画家たちであった。フランス留学中に親交し、帰国後、前田は官展で、他の画家たちは在野の二科展で評価され、画壇での地歩を着々と固めつつあったが、彼らはそれに満足せず、自身の制作を広くアピールし、同志を募り、切磋琢磨して、新しい洋画の表現を切り拓いてゆくことに情熱を注いだ。作風も各々異なっていたが、その個性を高め、際立たせていったこの活動は、後に続く画家たちを鼓舞し、まさに時代を推し進めることになる幾多の秀作を生み出して、「1930年協会」の名を忘れることのできないものとした。

しかし、佐伯がパリで客死し、前田も病床に臥せるようになり、木下が再び渡欧するといった出来事が重なり、画家たちの友情を基盤としていた「1930年協会」の活動は、奇しくもその名に冠していた1930（昭和5）年に終止符を打つこととなる。以後この運動に関係していた多くの画家たちは、同年に組織された「独立美術協会」へと活動のステージを移していった。

佐伯祐三〈扉〉1928（昭和3）年　田辺市立美術館蔵

この一連の流れを振り返るのが、この度の展覧会である。時代を画した作品の放つ魅力とともに、画家たちの情熱と友情をも会場で感じていただけたらと願っている。

（学芸員　三谷　渉）

INFORMATION

田辺市立美術館 開館20周年記念特別展

昭和の洋画を切り拓いた若き情熱

1930年協会から独立へ

会　場／田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館
会　期／平成28年7月9日（土）～8月28日（日）
開館時間／午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日／毎週月曜日（7/18は開館）・7/19（火）・8/12（金）
主　催／田辺市立美術館
観覧料／600円（480円）
学生及び18歳未満の方は無料
※（　）内は20名様以上の団体割引料金です。

新収蔵作品について

鍋井克之〈赤目四十八瀧遠望〉

昨年度は6点の作品のご寄贈があり、1点の作品を購入しました。

ご寄贈を受けた作品はすべて鍋井克之（1888ー1969）の作品で、《赤目四十八瀧遠望》（38.9×19.8cm／紙本・額装　※右の図版）、《梅》（径10.0×上弦40.1cm／紙本扇面・額装）、《あざみ》（径12.0×上弦42.3cm／紙本扇面・額装）、《やぐるま草》（径10.1×上弦40.8cm／紙本扇面・額装）、《くり》（20.4×14.4cm／紙本・額装）、《花》（38.8×29.5cm／紙本・額装）の6点です。鍋井に師事していた方が大切にされていたもので、ご厚志によってご恵贈いただきました。油彩画を制作の主にしていた鍋井ですが、しばしば日本画の筆もとってユニークな作品を残しています。鍋井の多彩な側面を伝えてくれる作品で、画家の全体像を紹介するときには欠くことのできないものです。

購入した作品は、麻田鷹司（1928ー1987）の《那智E》（1960年／91.0×50.0cm／紙本・額装）で、今号の表紙に図版と作品紹介を掲載しています。当館では初めての収蔵となる麻田の作品です。

またこの他に、当市が所蔵している作品を当館の所蔵品として登録する管理換えが2件ありました。

鍋井克之の作品、《円月島》（1938年／31.6×41.0cm／油彩・カンバス／額装）と、渡瀬凌雲（1904ー1980）の作品、《潮岬》（1967年／160.6×256.5cm／紙本・額装）です。これまでも当館で展示を重ねてきた作品で、今後も良好な状態の維持と紹介に努めたいと思います。特に鍋井の作品については、修復の処置を行いましたので、今年度の館蔵品展で展示の機会をつくりたいと思っています。

（学芸員　三谷　渉）

REPORT

田辺市合併10周年記念特別展を終えて

2005（平成17）年の市町村合併により田辺市立美術館と熊野古道なかへち美術館が本館・分館の2館体制となってスタートしてから10年となることを記念して2回の特別展を開催しました。これまで両館が進めてきた作品収集活動の成果を合併前後にかかわらずご覧いただこうという趣旨でした。

まず第一弾として春に、本館コレクションの基軸の一つである近世の文人画と分館コレクションの主である近代の南画家、渡瀬凌雲の作品を題材に、それぞれの作品の共通点である「墨の表現」にスポットをあてた特別展を開催しました。この展覧会では本館・分館による作品の入れ替えも行われたため、前期と後期に分けて、本館・分館とも2回ずつ、計4回の展示解説会を行いました。

第二弾では、先に開催した墨の表現の魅力を紹介する展覧会に対して、両館のコレクションの中から水彩画、近代日本画、油彩画などの作品を題材に「色彩の魅力と表現」に注目した特別展を秋に開催しました。こちらの展覧会でも本館・分館それぞれ1回ずつの展示解説会を行いました。

両館ではこれまでもそれぞれの館が持つコレクションを題材に、テーマを設定して何度も展覧会を開催してきていますが、この合併10周年を機に開催した特別展によって、それぞれの館が行ってきた収集活動や展覧会活動で蓄積してきた情報を同時に公開できただけではなく、両館のコレクションの特徴を活かした企画を考える上でのこれからの可能性を再確認することにもつながりました。

（主任　辰巳　充）

展示解説会の様子（田辺市立美術館）

地元のイベントに協賛した日は特に賑わいました（熊野古道なかへち美術館）

美術館開放講座　ストリングラフィ　－ 糸が奏でる森のサウンド2015 －

熊野古道なかへち美術館では昨年11月21日に美術館開放講座として「ストリングラフィ　ー糸が奏でる森のサウンド2015ー」を開催しました。糸電話の原理を応用した楽器「ストリングラフィ」を操るスタジオ・イヴのみなさんにお越しいただいて、ワークショップとコンサートを行いました。

午前のワークショップ「森の音を出そう!」では、絹糸の両端に紙コップを取り付けてストリングラフィをつくり、美術館の庭に生える木々に結びつけて、音を出してみました。絹糸を手で擦ったり弾いたりして鳴らした、鳥の鳴き声のような音や打楽器のような音は、川のせせらぎや風の吹く音などとも混じり合って、音を通じて自然と交流するような体験が生まれました。

午後のコンサート「森の記憶」の第一部では、ストリングラフィの紹介を交えながら親しみのある曲が演奏され、第二部ではストリングラフィの考案者である水嶋一江さん作曲のオリジナル曲が披露されました。展示室に張り巡らされた絹糸、ストリングラフィから奏でられる音楽、演奏者の動き、そして絹糸の中心に座る鑑賞者が呼応して、展示室全体が一つとなって響き合いました。特に第二部の、熊野の森の時間の経過を表現した今回のコンサートのための特別なプログラムや、水嶋さんの代表作でコンサートのタイトルにもなった「森の記憶」の演奏中は、まるで目の前に森が立ち上がってゆくようでした。

今回の事業は当館と、文化を通して子供の感性を育むことを目指す民間団体のカルチャーofキッズとが連携して企画の内容を検討し、実施しました。当館でワークショップとコンサートを行った翌日には、カルチャーofキッズ主催でファミリー向けのコンサート「糸の森へようこそ」が紀南文化会館で開催されました。この成果としてストリングラフィの多彩な魅了を幅広い世代のみなさんにお届けすることができたのではないかと思います。お力添えいただきました方々にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

（学芸員　知野　季里穂）

野外でのワークショップ
木にストリングラフィを結びつけて音を出しています

コンサートの様子
衣装も繭玉をイメージした素敵なものでした

改修工事が終わりました

今年の11月1日に、田辺市立美術館（本館）は開館して20周年の節目となります。この記念すべき年を少しでも良い環境で迎えようと、昨年の11月からおよそ5ヶ月間の休館をいただいて、いくつかの積年の課題となっていた施設の改修を行いました。皆様にはたいへんご迷惑をおかけしましたが、おかげで工事も無事に完了いたしました。

ご来館の際、まずお気付きいただけるのが建物外壁の再塗装かと思います。長年の日射と風雨によって色褪せていたばかりでなく、木材自体の耐用も危ぶまれていましたが、今回の改修によって美観と堅牢性は大きく向上しました。

中に入っていただくと、展示室3・4・5の照明設備の改修によって、これまでとは随分と違った展示の印象を受けられるかと思います。従来の照明は展示室の壁面全体を均一に照らすものでしたが、作品にスポットを当てることや作品の性質によって明るさに変化をもたせることが可能となっています。近年技術革新が急速に進んだLED照明の器具も備え、エネルギーの使用効率も改善されるものと考えています。

この他にも、非常時に備えて自家発電機の蓄電池を更新するなど、諸々の修繕に取りくみました。今後も、皆様に快適で安全に美術館をご利用していただけるよう努めてまいりたいと思います。

（館長　岡本　美彦）

新しい照明での展示にご期待ください

展覧会スケジュール

平成28年度

■ 田辺市立美術館

H.29 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

- 展示替のため休館（4月）
- ①特別展 鈴木理策写真展 ー意識の流れー 4/16（土）～ 6/26（日）
- 展示替のため休館（6月）
- ②田辺市立美術館開館20周年記念特別展 昭和の洋画を切り拓いた若き情熱 1930年協会から独立へ 7/9（土）～ 8/28（日）
- 展示替のため休館（9月）
- ③田辺市立美術館開館20周年コレクション展 文人画 9/17（土）～ 11/6（日）
- 展示替のため休館（11月）
- ④田辺市立美術館開館20周年コレクション展 近代絵画 11/26（土）～ 1/29（日）
- 展示替のため休館（2月）
- ⑤特別展 生誕110年記念 吉岡堅二展 2/11（土・祝）～ 3/26（日）

■ 熊野古道なかへち美術館

H.29 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

- 展示替のため休館（4月）
- ①特別展 鈴木理策写真展 ー水鏡ー 4/16（土）～ 6/26（日）
- 展示替のため休館（6月）
- ②田辺市立美術館開館20周年記念特別展 昭和の洋画を切り拓いた若き情熱 1930年協会から独立へ 7/9（土）～ 8/28（日）
- 展示替のため休館（9月）
- ③田辺市立美術館開館20周年コレクション展 現代絵画 9/17（土）～ 11/6（日）
- 展示替のため休館（11月）
- ◆美術館開放講座 かみ・カミ・紙 ～谷内ねおさんとつくる～ カミの虫・かみの森 ワークショップ：11/19（土） 展示期間：11/20（日）～ 11/27（日）
- 展示替のため休館（12月）
- ④館蔵品展 戦後の日本画 2/11（土・祝）～ 3/26（日）